平成28年度　学校評価書

大津市立逢坂小学校

評価の基準 （ 3：よくできた　2：できた　1：あまりできなかった　0：まったくできなかった ）

項　目		評　価　の　観　点	自己評価（教職員による評価と平均値）(3・2・1・0) 昨年度 項目別	昨年度 中項目	今年度 項目別	今年度 中項目	現　　況	学校関係者評価(3・2・1・0) 中項目の評価	ご意見・提言等があればお書きください。	今後の改善に向けて
学び合い（協同的な学び）	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2.14	2.16	2.43	2.51	・協同的な学びを通した授業の校内研究は5年目を迎えている。日常の授業でも指導者が意識して「グループ学び」や「みんな学び」など「学び合い」を取り入れた授業実践を行うことで、伝えるカや聴く力が定着してきた。今後も協同的な学びを通して、学び合う姿勢を育てていきたい。 ・行事や学年の取組をはじめ普段の授業を通して、今後も支持的風土に満ちた集団に高めていく。また、特別活動（学級活動）を活性化させ、自治力を高めていきたい。	2.65	・元気が一番。それでこそ仲間と共に学び合えると思う。 ・学び合いの授業に成果が見られる。 ・協同することの大切さ、みんなですること、共に育つ、学ぶことに力を入れて取り組んでいる。 ・「めあて」「振り返り」「聞き合う」ことのできる関係づくりはよい。 ・どの学年も静かに授業されており、教科によって学び合いの形に机が並べられており、効果的な授業の仕方なのだろうと思った。 ・人の意見を聞くことで知識が広がり、大人になるためのコミュニケーション能力向上にとても役立つと思う。 ・協同的な学びを通して出された意見を真剣に受け止める、理解しようとする空気が育ってきている。 ・「教えてあげた」「教えてもらった」という話を子どもから聞いている。相互の力を高める取組だと感じる。 ・子どもが意欲的に主体的に学び合っている姿がとてもよいといつも感じる。	・今後も協同的な学びを通した授業実践を日常化し、児童が共に学び、共に高め合う学校を目指していく。 ・分からないことを「分からない」と素直に友達に尋ね、その願いに素直に応える子ども同士の関係をつくり、支持的風土に満ちた関係を土台に、学力向上を目指していく。
	2	協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善	2.00		2.38					
	3	学び合いを追究する授業研究や研修会	2.33		2.71					
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を 育てる活動の実施	2.14	2.16	2.52	2.49	・日常の道徳の時間の充実を図り、思いやりや自尊感情を高めるよう努めてきた。全校的には、イエローリボン、いじめ撲滅宣言等の取組は定着しているので、さらに意識を高めていきたい。 ・全校で道徳参観を実施し、「命の大切さ」を扱う授業を公開した。保護者に我が子への手紙を書いていただくなどして、共に命について考える機会となった。今後も継続させていきたい。 ・教科化に向けて年間指導計画の作成、教材・資料の整理等一層の充実を進めていく。 ・人権週間の取組だけでなく、日頃からの人権尊重を意識した授業づくりを推進していく。	2.81	・人として当たり前のことを当たり前に出来る子どもで、良いものは良い、悪いものは悪いをしっかり身につける子に育ててほしい。 ・道徳教育の充実を感じる。 ・人権はとても幅広い。多様性を大事にする心を育ててほしい。ひとり一人違っていということを分かる子どもに育ててほしい。 ・30年度教科化に向けて研修されている。全校道徳や保護者も一緒に道徳の授業に参加して児童と一緒に考える道徳を実践してはどうか。 ・自尊感情を高めることは自分を大切にし自信を持って生活できるために大切なことだと思う。その意識が定着してきているようで素晴らしい。 ・子どもへの手紙はなかなか書く機会がないが、命の授業の手紙は大切にしており、感謝している。 ・家庭教育のあり方に関連すると思うが、家庭・地域連携とも関連して逢坂っ子の成長を助長するアピールや中心的役割をお願いしたい。 ・友達を大切にする心をよく育てられていると思う。 ・道徳の教科化・・・評価が難しそうだ。 ・卒園した子どもたち、保護者と交流し、その中で心豊かに育っていることがとても嬉しい。多様な価値観を育めるような取組も推進したい。	・平成30年度からの「特別の教科道徳」の実施に向けて、指導計画等の準備を計画的に進めていく。 ・自尊感情や人・もの・自然を大切にする「豊かな心」を育むため、計画と評価のサイクルを止めることなく、取組を充実させていく。
	5	道徳の授業研究や資料の開発・整備・交流	2.10		2.19					
	6	保護者等への道徳の授業公開	2.24		2.76					
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	1.90	1.90	2.29	2.54	・授業の準備運動に体力向上を目的として「鬼ごっこ」を取り入れる取組を共通理解・共通実践できた。 ・「55mでGoGoGo！」や「なわとびオリンピック」など体つくり委員会の取組が全校に定着している。 ・運動場改修工事により、運動会終了後運動場が半分しか使用できない状態が続いているが、子どもの体力向上と運動習慣の定着に向けて体育館やオープンスペースでの取組を実施している。 ・週末および長期休業時の「体育の宿題」による運動習慣の定着を図っている。 ・昨年度からの伸びは、遊具がない、運動場改修工事等ハンディキャップの中、教員の指導の工夫による体力向上と体育の宿題等による運動習慣確立に継続的に取り組んだ成果であると考えられる。 ・家庭との連携をさらに強めて体力向上を目指す。また、家庭に積極的に情報を伝える努力が必要である。	2.73	・まず体力が大切。健康な身体に育ててほしい。その次に学習である。 ・目標を持ってみんなで取り組んでおり、良い成果が出ていると思う。運動することが苦手な子どももその取組の姿を評価していくことが大切だと考える。 ・教室やホール等々の体力向上に向けた掲示物の工夫やめあて、目標の掲示などが良い。 ・遊具のない状況で8の字なわとびは体全体を使っての動きで、協力にもつながり、楽しく参加しながら体力向上につながっていると思う。 ・体力づくりカードはよいが、マンネリ化し、子どものやる気が落ちてきている。8の字大会など協力しながら出来るものはとても評価している。 ・限られたスペースの中で工夫されていることがよく分かった。 ・狭い運動場で工夫して体力づくりに取り組んでいると思う。 ・体育の宿題は親子のふれあいの時間にもなるので、保護者も一緒に取り組む気持ちを持つことも大切だと感じる。運動場改修工事が終わっても取組を継続させてほしい。 ・乳児から児童への運動する力、段階など共に学び合うことが出来ればと感じる。	・体力向上、運動習慣の定着に向け、今後も家庭の協力を得る努力をしながら取り組んでいく。 ・教員主体の取組はもちろん、児童会主体の取組等についても評価改善しながら継続して取り組んでいく。
	8	体力づくりを推進する運動実践	1.86		2.71					
	9	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成	1.95		2.62					
指導改善（組織的・計画的）	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2.05	2.00	2.38	2.37	・日常の授業の最初に「めあて」をはっきりと示し、最後に「振り返り」を位置づけるよう共通理解・実践してきた。今後も指導者が付けたい力を明確にしながら取組を進めていく。 ・昨年度の全国学力学習状況調査の結果を受けて、「書く力」の育成に全教員で取り組み、一定の成果を得ることができた。今後は目的や資料に応じて、資料を元に書く力を育成することが課題である。 ・算数科の復習タイムを設け、継続的に取り組んだことが、基礎基本の定着につながっている。 ・国語科、算数科のデジタル教科書が整備されたのに加え、今年度はタブレットが各教室に1台整備された。ICT機器の効果的な活用を図って行きたい。 ・児童アンケートの「授業は楽しくて分かりやすい」という項目で、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」と答えている子もいたため、授業改善に継続的に取り組んでいく必要がある。 ・今行っている学習に関連づけた宿題を出したり、予習や調べ学習を取り入れた宿題を出したりするなど、工夫する必要がある。	2.75	・めあてを持って振り返ることの大切さを付けていると思う。 ・英語科について担当教員間で中学校と連携できる。教育課程をつなぐ小中連携が出来そうなイメージを持った。 ・「主体的な学びとは」で教員間で共通理解が必要である。 ・タブレット端末の活用、小学校高学年におけるプログラミング学習への準備を進める。 ・校内に多くの掲示物があり、様々な取組を熱心にされている様子が感じられた。昔と違い現代の機器を授業に取り入れ使いこなしている先生方はすごいと感じる。使い方や効果的な活用について研究されている。 ・授業の内容や家庭での指導のポイントを週間予定表などに書き込んでほしい。中学校に向けてノートの取り方、まとめ方を教えてほしい。 ・大人も言いっ放しで振り返ることがなかなか出来ないが、次への向上につながる大切な学びだと思うので定着させてほしい。 「書く力」は今後より大切になっていると思うので、工夫して取り組んでいってほしい。 ・努力しても頑張っても分かりづらい児童などへの個別指導の現状、様子なども知りたい。	・今後も自ら学ぶ力の向上のため、子どもたちの主体的な学びのサイクルを作り出すよう指導改善に努めていく。 ・「めあて」と「振り返り」を指導過程に定着させることはもちろん、指導者がつけたい力の明確化を図り、児童にとっても見通しの持てる「めあて」の提示を実践する。
	11	教職員の指導力及び3公・3現の2原則に立った組織的な教育力の向上	1.95		2.43					
	12	ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善	2.00		2.29					
育ちと学びを支える連携 ① 家庭・地域との連携	13	保護者の子育てに対する積極的な支援	1.95	2.06	2.38	2.43	・月に2度の学校だよりとホームページ、支所での掲示により、積極的に情報を発信することができた。ホームページの新着情報の更新も認知されつつある。 ・ブックママによる読み聞かせなど、保護者、地域、関係機関との緊密な連携を今後も続けていきたい。 ・逢愛（総合的な学習の時間）で地域をはじめ多くのゲストティーチャーにお話を聞く取組を継続して実施した。 ・「緊急地震速報」を利用した避難訓練、「不審者対応」の避難訓練にも取り組んでいる。	2.69	・家庭と地域とのパイプは学校行事と広報である。子どもが卒業した家庭は学校だよりである。 ・今後防災教育（地域との）、地域の特性、弱点、どうしていったらよいか考える機会を与えてほしい。 ・小中連携して防災訓練が出来るかもしれない。 ・地域だより、ホームページ等でタイムリーに情報を発信されており、地域の学校の様子を広く学区の方が知る機会となり地域密着の一つとなっている。 ・学校だよりを回覧していただき、学校の様子がよく分かる。 ・地域ぐるみの防災訓練などを実施すれば良いと思う。	・教育実践活動や学校からのお知らせなど、今後も継続して広報活動に取り組む。 ・地域・保幼小中が連携した防災教育・防災訓練のあり方を模索し、実施に向けて検討する。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2.14		2.52					
	15	防災教育の推進と安心・安全な学校づくり	2.10		2.38					
② 保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2.00	1.94	2.52	2.35	・5・5交流、出前授業、生活科での1年生との交流を継続して実施している。 ・今年度も幼稚園での研修会を実施した。また、幼稚園の作品展の見学などを通して、研修を深めることができた。 ・打出ブロックで保幼小中連携担当による会議を実施している。各校園間で授業・保育研究の交流も図っているが、なかなか参加できないのが現状である。	2.65	・イベントを通じた打出ブロックの連携につなげていきたい。 ・異年齢での関わりはとても大切だと考える。今後も連携して活動していってほしい。 ・生徒会執行部、児童会との連携を今後も継続させてほしい。 ・幼小の研修会で公開授業をしていただき、幼稚園教諭も多く、授業を参観させていただくことができ、就学前に大切にしなければならないことを考えるきっかけとなった。 ・地域でもなかなか縦割りの体験をさせる機会が減っているので、力を入れてほしい。 ・継続して取り組むことで小学生にとっても幼稚園児にとっても保護者にとっても見通しが持てる。 ・人数的に難しいかもしれないが、保育園との合同研修、合同研究の実践が出来ないことはとても残念である。	・児童と生徒・園児、児童と教員、教員相互の交流・連携を活性化させると共に、保幼小中のつながりを意識した取組を継続して展開する。
	17	校種間の合同研修会	1.95		2.38					
	18	校種間の授業公開、カリキュラム研究	1.86		2.14					
組織的体制の充実 ① 生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導　※	2.33	2.11	2.90	2.82	・問題行動等の発生から、解決に向けた具対策の検討、実施まで、組織的に対応することができた。「報告・連絡・相談」が十分機能するように、今後も全教員の危機意識を喚起し、徹底していきたい。 ・児童支援委員会、職員打合せ後のいじめ対策委員会を定期的に開催し、情報を交換することができた。 ・SOSアンケートを毎月実施し、担任および担任外で確認、対応することによって早期解決につながっている。 ・児童アンケートの「人をいじめたり、仲間はずれにしたりしていない」、「学校のきまりを守っている」の項目で、高い数値が出ている。しかし、子どもの現状と合っていないと感じる。	2.83	・打出ブロックではいじめを許さない。これは学校、地域の連携の賜物である。 ・生徒指導、相談体制に組織的な確立の成果に表れている。 ・子どもの思いを大切にしてほしい。いじめた子、いじめられた子、双方の思い、気持ちを十分にくみ取った対応をしていってほしい。謝罪で終わりにしないでほしい。 ・中学校は風通しのよい職場をつくり、何でも話せる人間関係、同僚性を高める必要性を感じている。 ・朝早くから児童の迎えをされている姿を見かけ、熱心な指導を感じる。 ・子どもの悩み等を共有していただき、有り難く思っている。 ・個々の子どもの気持ちを受け止められている。 ・保護者と児童で数値に差があるとのことだが、いじめということがどういうことかを学んだ上でより自分がその立場に立って厳しく評価できているという表れではないか。 ・保育園との連絡会があると良い。	・「報告・連絡・相談」システムの常態化を継続し、危機意識を持って、未然防止・早期発見・早期対応に取り組むと共に、情報共有を基盤とした組織的対応を継続して実施する。
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進　※	2.33		2.76					
	21	6つの約束の徹底（家庭・地域・関係機関との連携による指導）	1.67		2.81					
② 特別支援教育の充実	22	個別指導計画の作成と活用	2.38	2.27	2.76	2.73	・個別の指導計画を保護者と共に作成、見直しをしている。作成に当たっては、担任は勿論コーディネーターが積極的に関わっている。さらによりよい支援ができるよう努めていきたい。 ・日頃から支援を必要とする児童に関する相談や悩みを共有できている。 ・発達相談センター等関係機関と連携し、アドバイスを受けて、指導に役立てている。 ・看護師免許を持つ支援員を含めて3人配置されている特別支援教育支援員が児童のニーズに応じた支援をしている。児童が安心して学校生活を送ることができている。	2.98	・日頃から学校と地域が共通の認識で頑張って行きたい。 ・子どもが安心して学校生活を送れていること、その環境が整っていることはとても良いことだ。それぞれの子どもが成長していける支援を今後も続けてほしい。 ・ユニバーサルの視点を取り入れた授業実践、通常学校級在籍の支援を要する子どもを意識した板書計画、学習規律が徹底されていると感じた。 ・指導計画の活用状況を教えてほしい。作成しても活用が難しいと感じている。 ・ポイントが上がったのは安心して預けられるから。 ・子どものニーズに応じた支援がされている。 ・交流学級での児童の姿、学習の様子など、個々に違うとは思うが、個別計画の内容などを知りたい。	・関係機関・保幼小中・保護者と連携しながら、出来る限りの合理的配慮を実施し、どの子も学んでよかったと思える体制づくりと指導・支援を行う。
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2.24		2.81					
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	2.19		2.62					
学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	2.05		2.52		・児童の満足度は昨年度から.5ポイント上回った。大幅な伸びである。 ・児童アンケート全体の平均値が2.53、保護者アンケート全体の平均値が2.39であった。何れも昨年度の値を上回る結果となった。この結果に甘えることなく、さらに満足度を高めていくためには、教職員が日々「切磋琢磨」の精神をもって校務に励む必要がある。	2.90	・児童の満足度の高さが今回のトータル的な評価の伸びを如実に語っている。 ・学校に行きにくい子どももみんな学校が好きで行きたいと思っている。満足度が高いことはとても良いことだ。 ・昨年から.5ポイント上がったのは素晴らしい。 ・全体的に子どもの学校への満足度、信頼度が高いというのは、我が子を通して感じる。 ・児童の学校満足度が高いのが嬉しい。 ・安心して通わせられる学校であると感じる。	・教員が教育目標の具現化に向けて、今後も自ら切磋琢磨しながら、自信をもって教育実践活動に取り組む。

読書活動	26	朝読書等の読書活動の積極的な取組	3.00		3.00		・朝読書の取組は定着している。 ・平均3.00の結果は、朝読書を中心とした読書活動に対する教員の意識の高さの表れである。打出中ブロックで共通した取組を今後も続け、充実させていきたい。 ・児童も充実した時間だと感じている ・一部読書活動に消極的な児童がいるため、親しめるような手立てが必要である。また、家庭での習慣化を目指して連携および情報発信を強化していく。	2.91	・読書活動の取組は定着したと判断される。 ・読む力を付けることは大事だ。そこからいろいろな知識を得て、発想を展開していく。 ・読書の楽しさを知っている。 ・よい習慣がついて良い。 ・毎日継続することはとても大切だと思う。	・豊かな感性や情緒を育み、学力向上の基盤となる読書活動の取組を今後も継続していく。
体験活動	27	環境教育等体験活動の積極的な取組	2.33		2.86		・エコスクール13年連続認定を目指している。 ・現在の取組について改善すべき点は改善を加え、今後も体験活動を重視した環境学習の充実・発展を目指して、様々な取組を展開していきたい。 ・多くの地域の方、各専門分野の方を講師として招聘したり、自然と触れ合ったりする機会を今後も大切にしていく。	3.00	・エコへの取組の継続は素晴らしい。恵まれた環境を生かして今後も頑張ってほしい。 ・継続は力なりです。素晴らしい取組である。 ・家庭では出来ない体験をさせてもらっている。	・本校の伝統である環境教育をはじめとする体験活動について、評価・改善を繰り返し、更に充実・発展を目指していく。

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.45		2.53		
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.26		2.39		